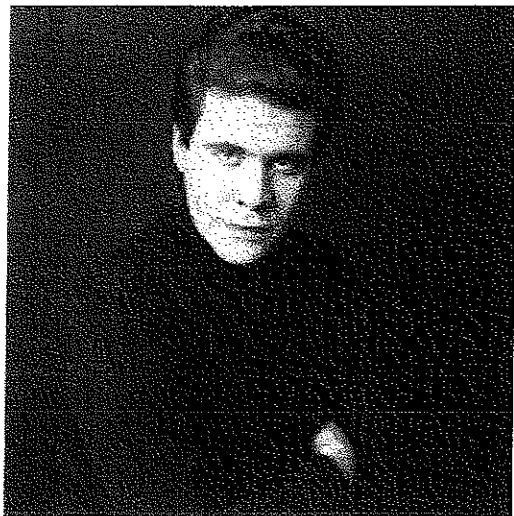


デニス・マツエフ (1975年6月11日) ピアニスト



ロシアのシベリア地方に位置するバイカル湖沿岸の都市イルクーツクの音楽一家に生まれる。

4歳でピアノを始め、たちまち素晴らしい才能を現す。

音楽教育はイルクーツクの芸術学校に始まり、その後モスクワ音楽院のセメントォフの下、イルクーツク音楽学校に学ぶ。1984年、9歳の時にハイドンのピアノ協奏曲でデビュー。

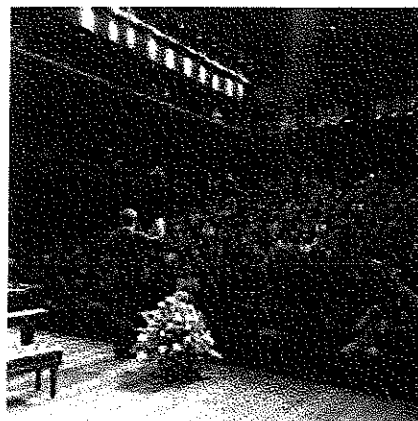
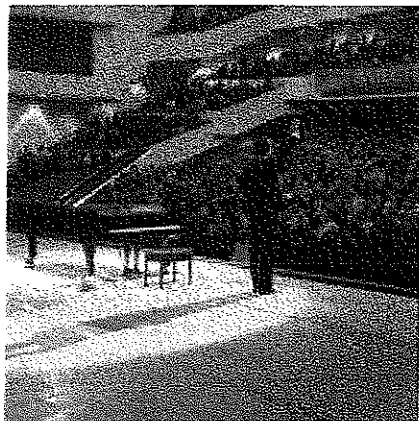
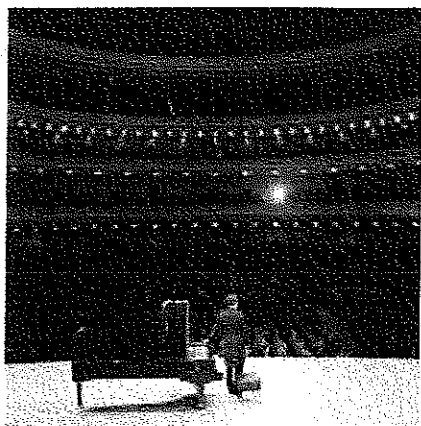
1991年、モスクワ音楽院付属中央音楽学校の9年生に転入し、ピャセツキーのクラスで学ぶ。積極的なコンサート活動と学業を両立させながら、ロシア各都市、諸外国で演奏。音楽学校在学中に南アフリカ共和国の

ローデンポート国際音楽コンクールでグランプリを獲得。

1994年、モスクワ音楽院に入学し、アレクセイ・ナセドキン、セルゲイ・ドレンスキーに師事。ドレンスキーは、「完璧な技術と表現力は目覚しく、とても聡明で、才能に恵まれた生徒」とマツエフを評している。

マツエフの名は、当時のエリツィン大統領によりゴールドブック「NewNames」に加えられ、40カ国以上で演奏活動を行い、大成功を収める。

1998年、第11回チャイコフスキー国際コンクールで優勝。以後、世界各地でリサイタルを開き、また著名な指揮者や主要オーケストラとの競演を重ねている。音楽祭や芸術の参加も多い。現在は年間120回以上のコンサートに出演し、目覚ましい活躍を行っている。近年ではソチオリンピックの閉会式で演奏しダイナミックなパフォーマンスに世界中が魅了された。



ニキータ・ポリソグレスキー



1985年ロシア生まれ。モスクワ・チャイコフスキー記念モスクワ高等音楽院でドゥアルド・グラチ教授及びタチヤーナ・ベルクリ教授に師事。2008年に同音楽院を終了後、ベルギーのエリザベート王妃音楽大学にてオーギュスタン・デュメイの薫陶を受ける。また2007年よりモスクワ・フィルハーモニック・ソサエティの専属アーティストを務めている。

第13回チャイコフスキー国際コンクール・ヴァイオリン部門第2位。2010年にはシベリウス国際ヴァイオリンコンクール、クライスラー国際ヴァイオリン・コンクールそれぞれ優勝を果たし、大きな注目を集めた。またエリザベート王妃国際音楽コンクール、モントリオール国際音楽コンクールでも上位に入賞している。

ロシアとヨーロッパで数多くのオーケストラと共演しており、これまでにマリインスキー劇場管弦楽団、モスクワ・フィルハーモニー交響楽団、ロシア国立交響楽団、ハノーファー北ドイツ

放送フィルハーモニー管弦楽団、リトアニア国立交響楽団、ポーランド放送アマデウス室内管などと共演。指揮者では、ヴァレリー・ゲルギエフ、クリストフ・ボッペン、ユーリ・シモノフ、マキシム・ヴェンゲーロフ、ダヴィド・ゲリンガス、アニエスカ・ドゥチマルなどと共演している。

ヨーロッパの著名な音楽祭にも定期的に出演。ザルツブルク音楽祭、ラインガウ音楽祭、ボン・ベートーヴェン音楽祭、モスクワで行われるスピャトスラフ・リヒテルの音楽祭「12月の夕べ」、ドブロヴニク・サマー・フェスティバル、サンクトペテルブルクの白夜音楽祭などに登場している。

ソロ活動に加え、室内楽奏者としても活躍しており、これまでにボリス・ベレゾフスキー、ジャン・ワン、ロディオ・シCHEDリン、アレクサンダー・クニャーゼフ、ナターリヤ・グートマン、オーギュスタン・デュメイ、ダヴィド・ゲリンガス、ラファエル・ウォルフィッシュなどと共演している。

2009年に米国のマイヤ・プリセツカヤ&ロディオ・シCHEDリン国際財団より、年間最優秀ヴァイオリニストを授与される。レパートリーはバッハ、ヴィヴァルディからシCHEDリンやペンデレツキまで幅広い。現代ロシアを代表する期待のヴァイオリニスト。

セルゲイ・アントーノフ



1983年、モスクワにてチェリストの両親の元に生まれる。モスクワ中央音楽学校ではM.ジュラヴリョーフ、モスクワ音楽院ではN.シャホフスカヤに師事。2006年に卒業後、渡米。M.ロストロポーヴィチ財団のスカラシップを受け、ロストロポーヴィチのマスタークラスに参加。

2007年、第13回チャイコフスキー国際コンクールのチェロ部門優勝。



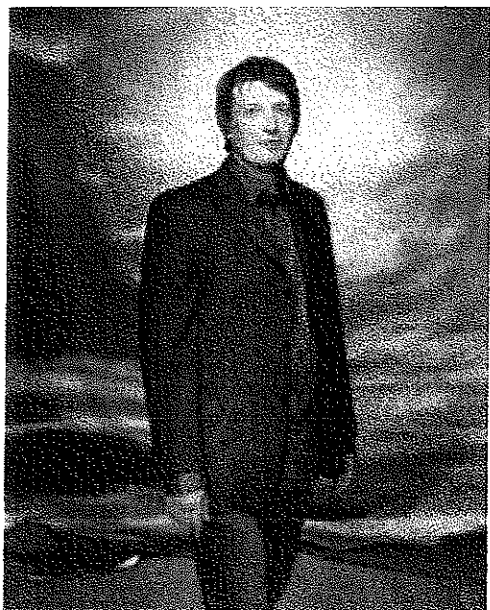
2008年、コンクール優勝者によるコンサートツアーで初来日。2009年サントリーホールガラ・コンサート「響」に出演、上原彩子や東京交響楽団(井上道義指揮)と共演。翌10年1月、新日本フィル定期演奏会(アルミンク指揮)に出演。同年

6月、王子ホールにて初リサイタル。そのスマートかつシャープな演奏は「現代的なセンスが漲っている」と評価された。2011年11月、大阪フィル公演(大植英次指揮)に出演。2014年はロリン・マゼール指揮のPMFにソリストとして参加。

現在はボストンに拠点を移し、ロシア、ヨーロッパ、アメリカで活動中。気鋭の新世代ソリストとして高い評価を得ている。



ボリス・ベレゾフスキー



ボリスベレゾフスキーはきわめて力強いテクニックを誇るピアニストとして、また独自の洞察力と豊かな感性を兼ね備えた才能あふれる音楽家として非常に高い評価を得ている。

モスクワ生まれ。1988年にウィグモア・ホールでロンドン・デビューを飾り、タイムズ紙より「輝かしい技巧と圧倒的なパワーを持つ、将来を囑望させる類稀な才能を持ったアーティスト」と絶賛される。1990年、モスクワのチャイコフスキー国際コンクールで優勝し世界中から注目を浴びるようになる。

これまで指揮者ではクルト・マズアやシャルル・デュトワ、ウラディーミル・アシュケナーズ、アントニオ・パッパーノら、オーケストラではBBC響、ロイヤル・コンサートヘボウ管、ミュンヘン・フィル、ニューヨー

ク・フィル、フィラデルフィア管、新日本フィルなどと共演。またヴェルビエ、ザルツブルク、ラ・ロック・ダンテロンなど数々の国際音楽祭より定期的に招かれている。室内楽のパートナーとしては、ブリジット・エンゲラー、ワディム・レーピン、ドミトリー・マフチン、アレクサンドル・クニャーゼフらと親交が深い。



2011年11月、アントニオ・パッパーノ指揮ローマ・サンタチェチーリア管弦楽団のソリストとして来日し、NHK音楽祭に登場。2012年5月にもラ・フォル・ジュルネ音楽祭への参加のため来日している。

録音では、ショパン、シューマン、ラフマニノフ、ムソルグスキー、バラキレフ、メトネル、ラヴェル、リスト（超絶技巧練習曲全曲）の作品を収めたディスクをテルデックからリリースし、各音楽誌で推薦盤として紹介されている。最近のCDでは、ロンドンのロイヤル・フェ

スティバル・ホールとトゥールのラ・グランジュ・デュ・メスレイ音楽祭で行った公演のライブ録音（リスト/2010年1月）などが挙げられる。